

竹演セット みす垣 全サイズ共通

この度は竹演セット【みす垣】をご購入頂きありがとうございます。
ご使用前に本書をよく読み、下記の注意事項を守りご使用下さい。

また、本書は大切に保管しておいて下さい。
万一不具合、不明な点がございましたら、弊社までお問合せ下さい。

取扱説明書に記載する表示について

本書には安全に関する重大な内容を表記してあります。
表示と意味は以下のようになっております。



警告

警告事項を守らない場合には死亡や重傷に至る重大な事故を
起こすおそれがあります。

- ・竹垣は隣地境界の目隠しや景観向上を目的に設置するものです、防護柵等の目的には使用しないで下さい。
- ・風当りの強い場所や地盤の弱い所で使用する場合は控え柱などを取り付けして下さい。



注意

注意事項を守らない場合には、怪我をしたり、製品が損傷する
場合があります。

- ・アルミ材などの小口や製品の切断面には鋭利な部分がありますのでご注意下さい。
- ・引火する恐れがありますので、火気や高温を発生する場所の近くでは使用しないで下さい。
- ・腐食の原因になりますので、アルミ柱の中にモルタルを流し込まないで下さい。
- ・モルタル、コンクリート用の急結剤は使用しないで下さい。
- ・凍結防止の為、水抜き穴をあけて下さい。また、アルミ柱の中にスチロール等を入れ水が溜まらない様にして下さい。
- ・柱の間隔などは指示範囲内で施工して下さい。
- ・倒壊する恐れがありますので、ビスで固定する部分は適正なトルクで締め付けを行って下さい。
- ・現場切り詰めを行う場合は切断面はヤスリ等でバリ取りを実施して下さい。

別途ご用意して
頂く必要のある物

- ・インパクトドライバー
- ・掘削用の各種工具
- ・柱固定用のモルタルコンクリート
- ・水平器などの各種工具



本社

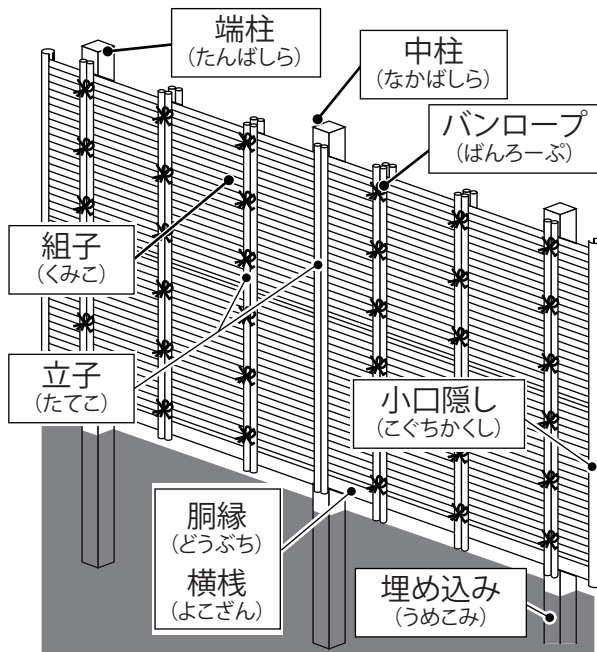
〒455-0025 名古屋市港区本星崎町字南3998-31

TEL:052-829-0800 FAX:052-829-0801

Email info@globen.co.jp

基本寸法図

説明書内で使用する竹垣独自の呼称もありますので、ご確認下さい。



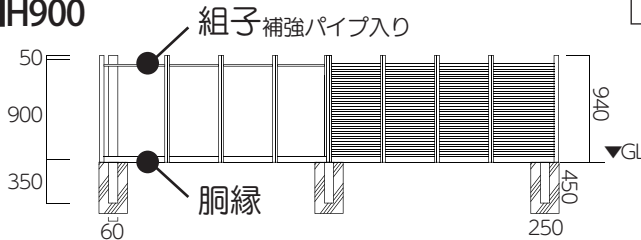
各部分の用語

- ・端柱：竹垣の端に来る柱
- ・中柱：端柱と端柱の間にある柱、90度に曲がる柱は直角柱と言う。
- ・組子：みす垣の横方向に積み上げてある丸竹
- ・立子：みす垣の縦方向にあり、組子を挟み込んでいる丸竹。丸竹を2本並べた物と割竹が1本のものがある。本製品は割竹を連結部分の隠し用に使っています。
- ・胴縁：アルミ材による丸竹の下支え。水平方向の場合、横棧とも呼ぶ。
- ・小口隠し：小口【みす垣の両端部】を隠すための部材です。本製品ではミゾ切の丸竹を使用しています。
- ・埋め込み：地中に埋める部分の事です。垣根の高さに応じて埋め込む深さが変わります。【下記参照】
- ・バンロープ：別名を人工シュロ縄とも言います。垣根の仕上げには欠かせない装飾です。

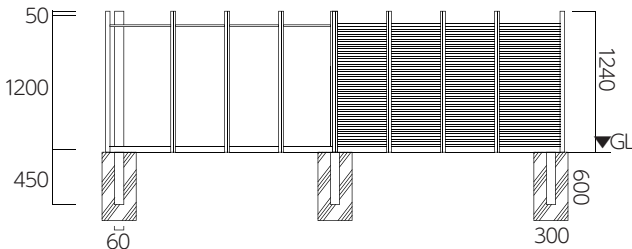
高さ別参考図

参考：柱埋込深さ基準 柱の埋込深さはGLからフェンス高さの1/3程度を確保して下さい。

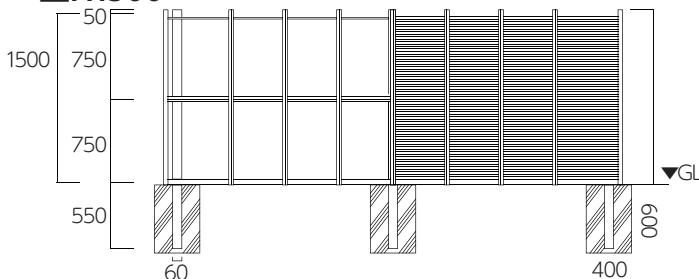
H900



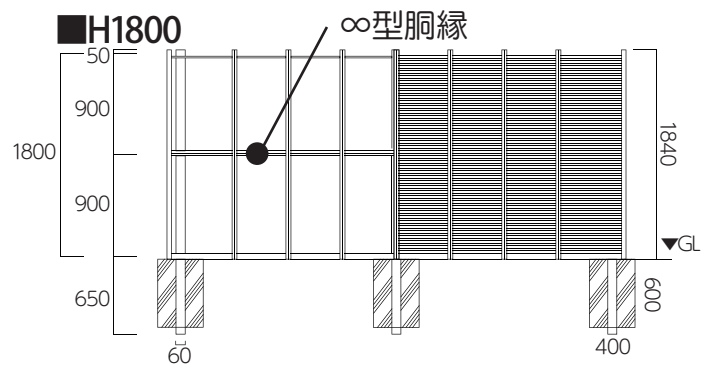
H1200



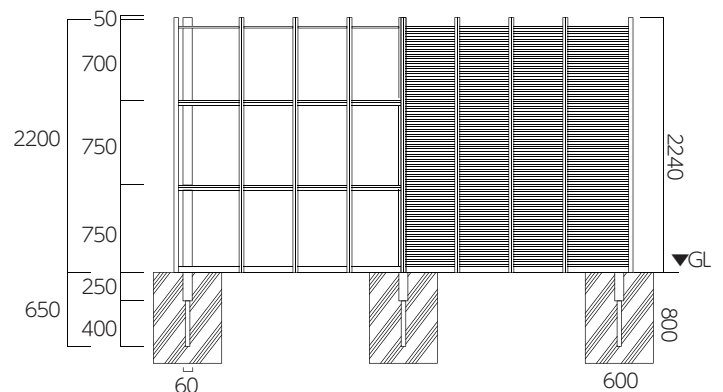
H1500



H1800

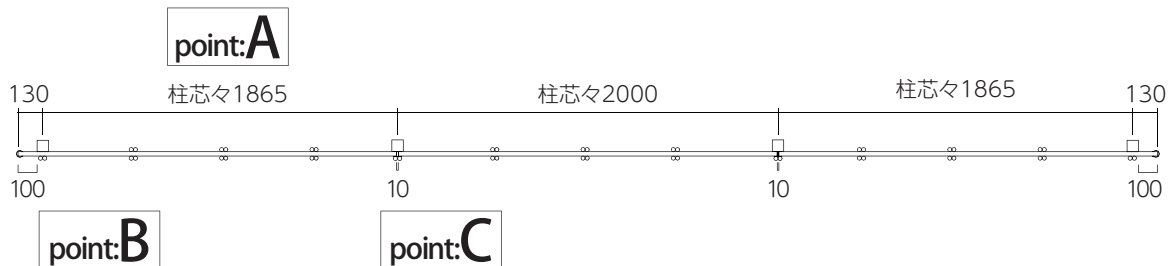


H2200



・取り付け手順

■柱ピッチ詳細図 :3スパンの場合

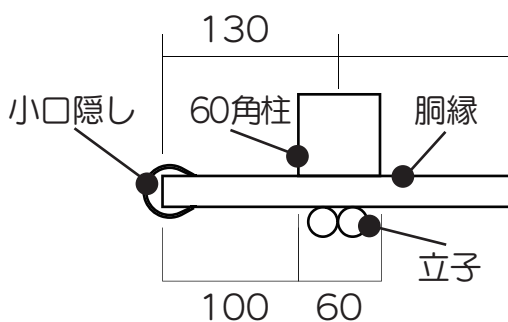


point:A 柱芯々寸法

- ・規格の柱埋込ピッチは、柱芯々寸法で 両端部：1865mm、中間部：2000mm です。
- ・柱ピッチは最大 2000mm までとして下さい。

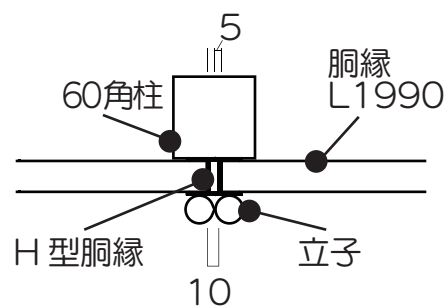
point:B 両端部ハネ出し

- ・組子のハネ出し長さは、柱端部から約 100mm までとして下さい。



point:C 中間接続部分

- ・中柱には縦方向に H 型胴縁を入れます。10mm のクリアランスです。長さ **L1990 mm** の胴縁で連結し柱芯々 2000 mm になります。

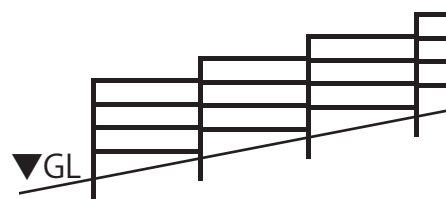


コーナーの納まり

コーナー部分は、直角連結の場合のみ、兼用柱での設置が可能です。直角以外の場合は、柱を2本立てて下さい。

傾斜の納まり

胴縁は水平に取り付けて下さい。

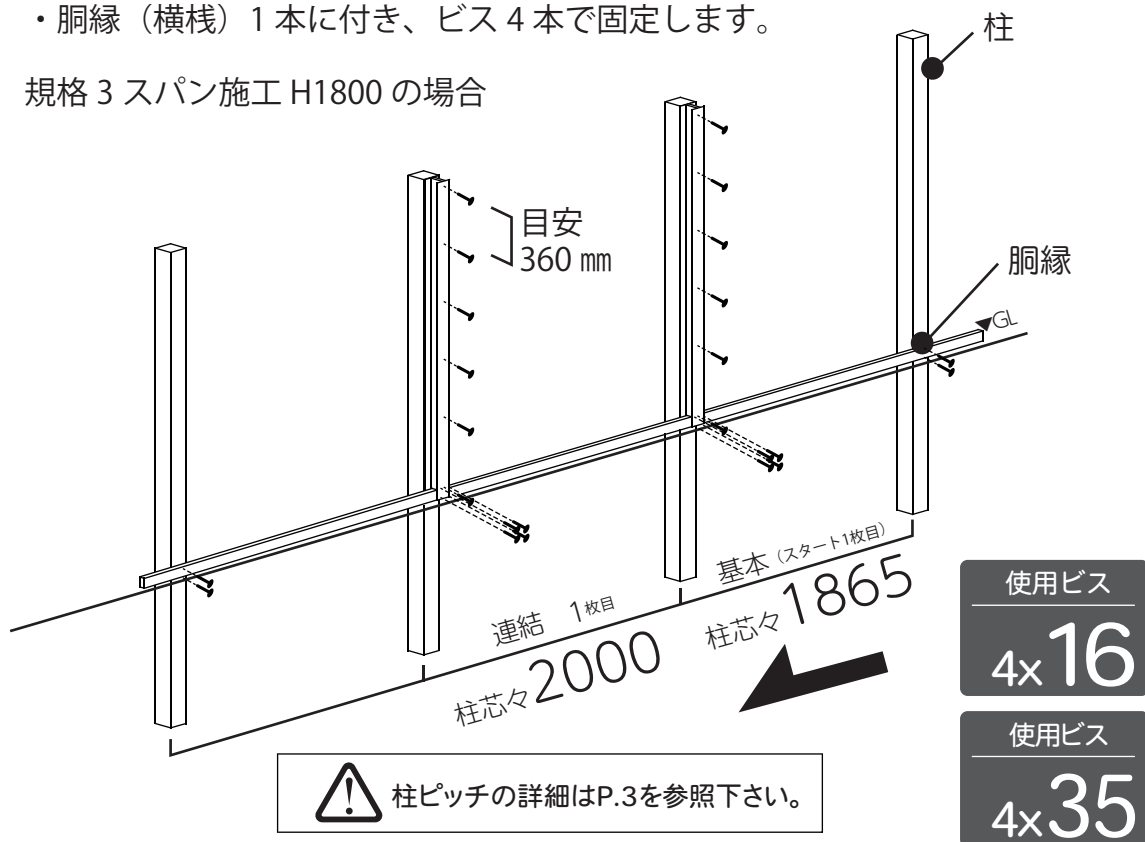


・ 取り付け手順

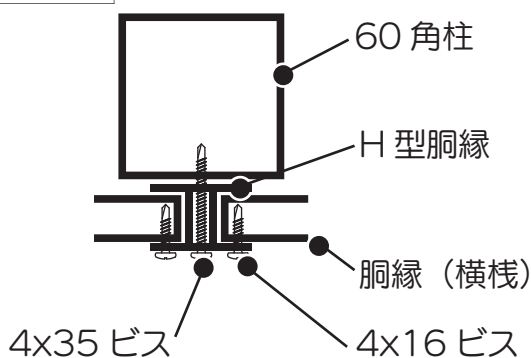
■ 柱とH型胴縁、胴縁（横棧）の取り付け

- ・ フェンス本体セット、柱セット、小口隠しセットはそれぞれ別売りです。
- ・ 柱を基本ピッチに準じて、立てます。アルミ部材はカットして調整します。
- ・ 柱ピッチについては P.3 もご参照下さい。
- ・ 柱にキャップを取り付けます。
- ・ 中柱に H 型胴縁を取り付けてから、胴縁（横棧）を取り付けます。
- ・ H 型胴縁は 300mm 間隔を目安にビスで取り付けます。
- ・ 1 スパンだけの場合 H 型胴縁は使用しません。
- ・ 胴縁（横棧）1 本につき、ビス 4 本で固定します。

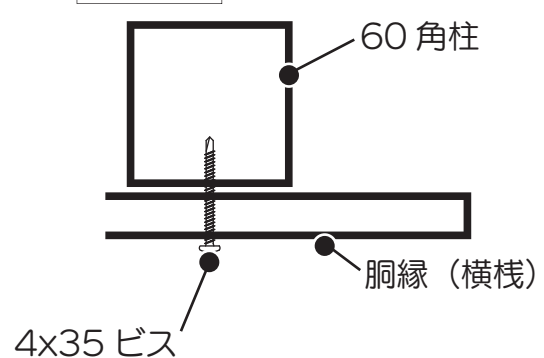
規格 3 スパン施工 H1800 の場合



中柱



端柱



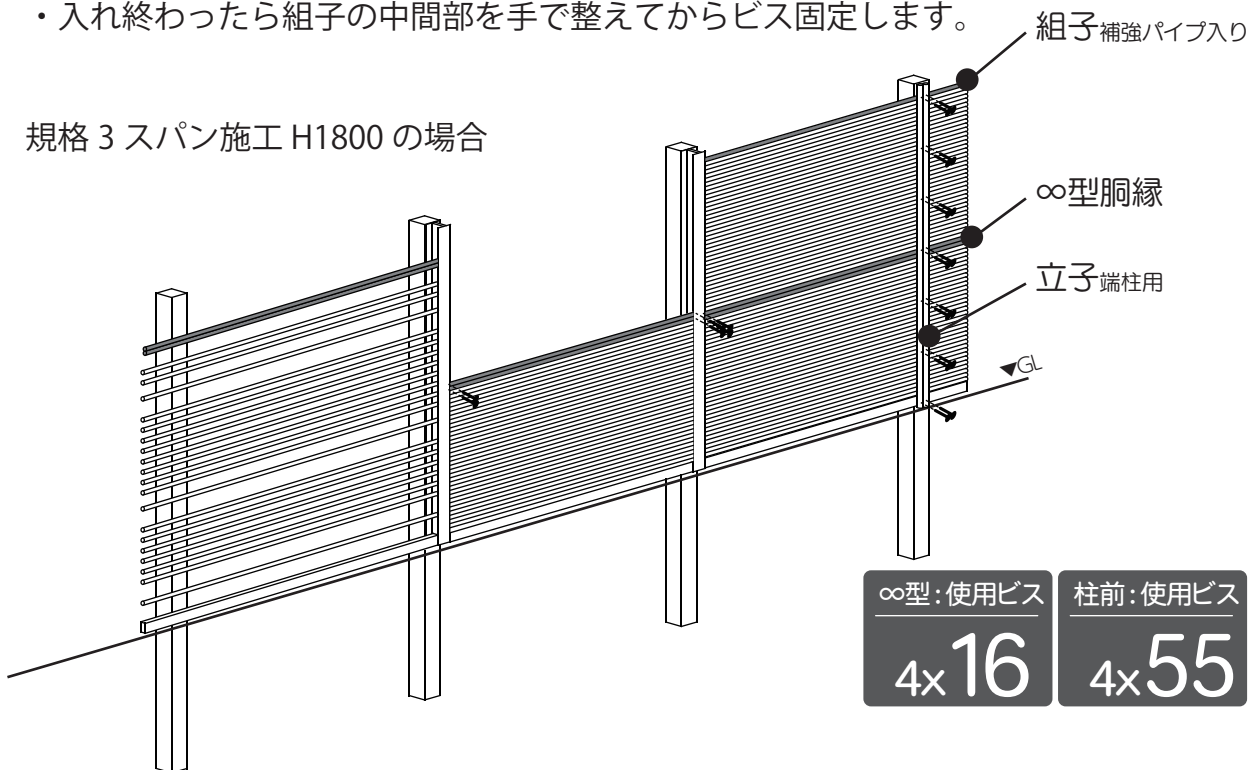
・ 取り付け手順

■ 組子入れ、端柱の立子

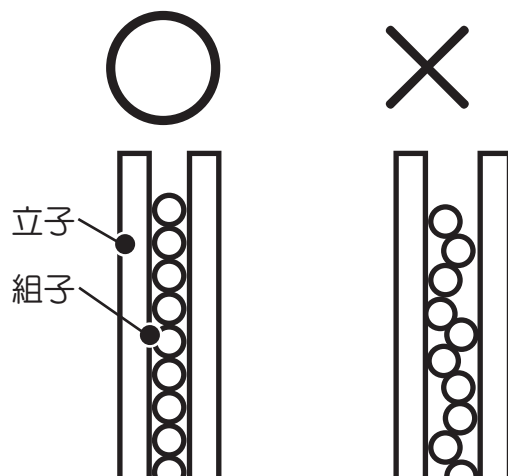
- ・ 組子の丸竹を H 型胴縁のミゾに順番に落します。
- ・ 組子丸竹のフシ装飾をランダムに入れて下さい。
- ・ 中間まで来たら、∞型胴縁（断面が 8 の字）を入れます。
ビス固定は組子を全部入れるまでしないで下さい。
- ・ 両端部は、立子を取り付けながら入れて下さい。
- ・ 最上段の組子だけ、中に丸竹補強パイプ（中芯材）を入れます。
- ・ 入れ終わったら組子の中間部を手で整えてからビス固定します。

∞型胴縁は
H900,H1200 には
使用しません

規格 3 スパン施工 H1800 の場合



組子は互い違いにして、
フシが揃わないように

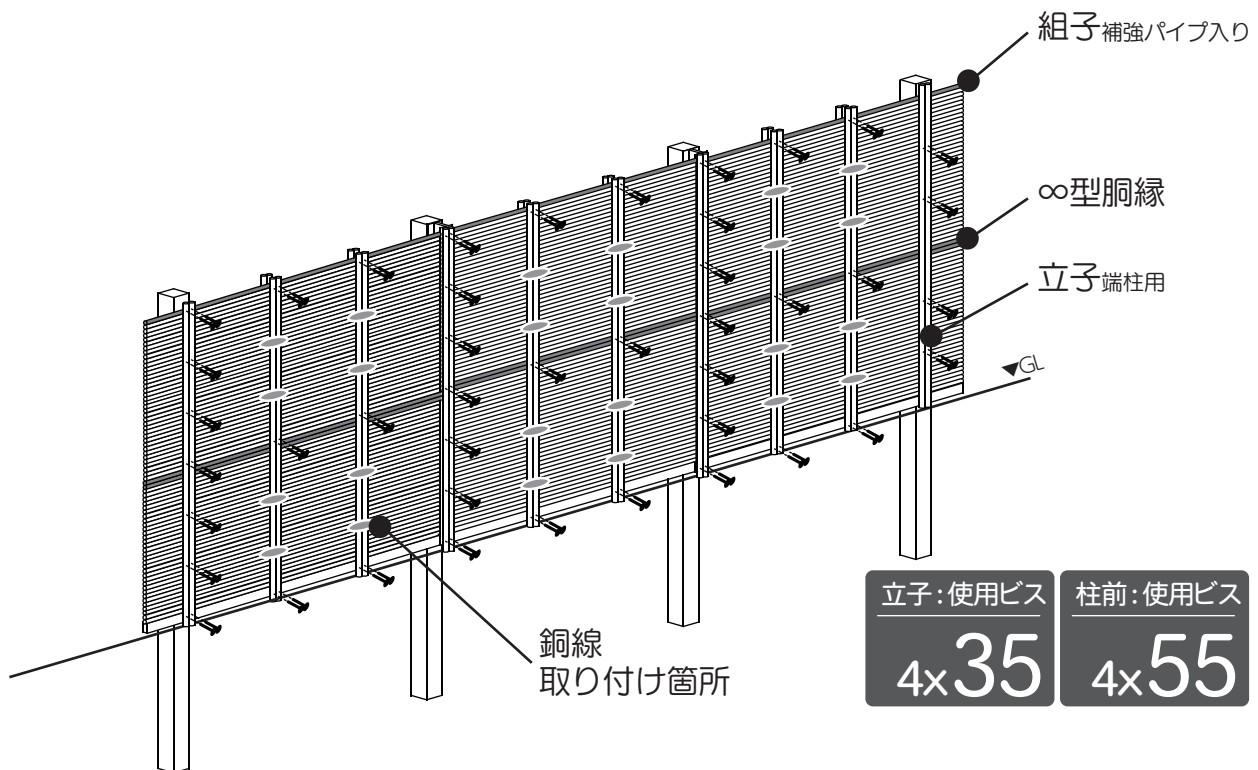


前後から挟みこんでキレイに並べます

・取り付け手順

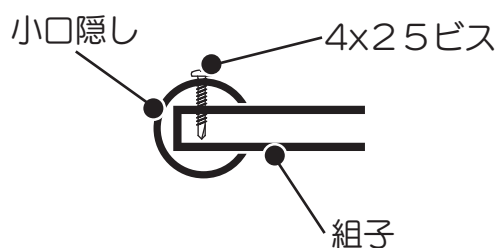
■中間の立子

- ・ 中間の立子を銅線とビスで固定します。
- ・ 銅線は組子 10 本おきの間隔を目安に下から順にペンチで締め付けます。
∞胴縁の箇所は飛ばします。
- ・ 両端部の小口隠しを取り付けします。胴縁、補強パイプ入組子の箇所
でビス固定します。



■中間の立子、小口隠し

- ・ 両端部の小口隠しを取り付けします。胴縁、補強パイプ入組子の箇所
でビス固定します。

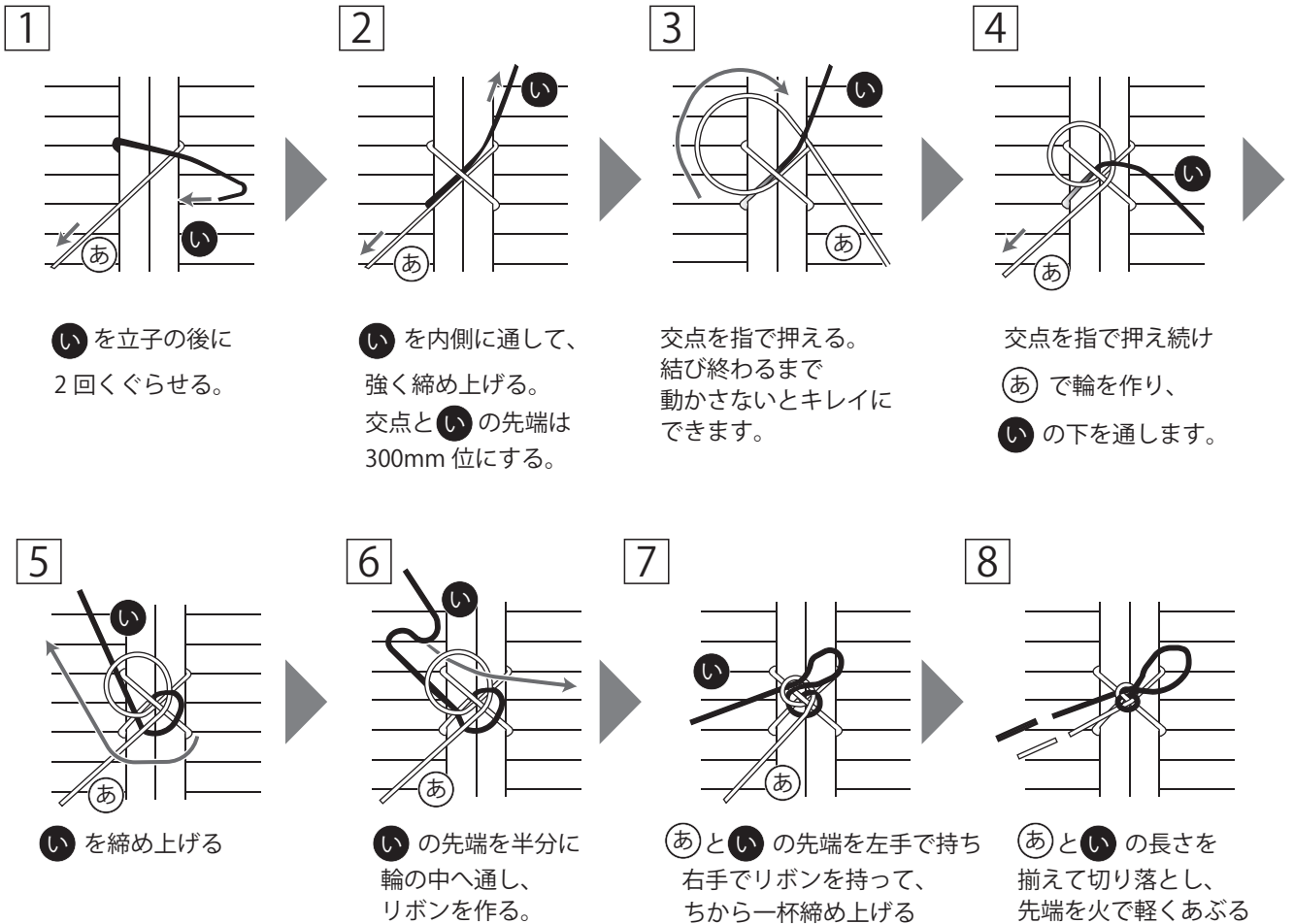


使用ビス
4x25

・バンロープ（シュロ縄）の結び方

■立子

- ・ 結ぶ箇所は、銅線を取り付けた部分で、隠す様に結ぶとキレイになります。
- ・ 慣れていない場合は、繰り返し練習してから行って下さい。



・ 梱包入数明細表

- ・ フェンス本体セット、柱セット、小口隠しセットはそれぞれ別売りです。
- ・ すべて1セット辺りの数量です。片面タイプ、両面タイプで入数が異なります。

■柱セット

	部材	数量
H900 H1200 H1500 H1800	60角柱:ダークブロンズ	1
	キャップ:ダークブロンズ	1
H2200 のみ 付属	スペーサー	2
	40角スチール柱	各1
	ビス4x16 20本入	
	ビス4x35 20本入	

■小口隠しセット

	部材	数量
各色 共通	38ミソ	2
	ビス4x25 20本入	1

■フェンス本体

※ステンレスビスは袋単位で、すべて1袋20本入です。
※1スパンの場合、H型胴縁と立子の一部が不要となります。

部材	H900	H1200	H1500	H1800	H2200
アルミ 胴縁 23x50 栗木目	1	1	1	1	1
アルミ H型胴縁 ダークブロンズ	1	1	1	1	1
アルミ ∞型胴縁 各色	1	1	1	1	2
アルミ 丸竹補強パイプ	1	1	1	1	1
丸竹 組子 L1985	37	49	64	77	95
丸竹 立子	16	16	16	16	16
バンロープ	1	2	2	2	3
銅線	1	1	1	1	2
ステンレスビス 4x16 骨組用	1	1	1	1	1
ステンレスビス 4x35 骨組用	1	1	1	1	1
ステンレスビス 4x35 立子用	2	2	2	2	2
ステンレスビス 4x55 立子柱前	2	2	2	2	2